

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200246		
法人名	株式会社 大洲産業		
事業所名	グループホーム清流		
所在地	熊本県八代市昭和日進町字会通152番3		
自己評価作成日	平成28年3月15日	評価結果市町村受理日	平成28年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成28年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の「したい」を尊重しケアをこなすよう力を入れています。これまで過ぎてきた生活を入居しても可能な限り続けられるよう支援しています。その為にご利用者様と多くの時間を過ごし、話をし、その人の事を良く知るよう努力しています。内部・外部の研修会に積極的に参加し、自己啓発に努めています。実践者研修修了者も増えてきた事でさらに質の高い認知症ケアの提供が行えるよう努力しているところです。食事についても力を入れており国産の食材を使用することはもちろん、旬の食材を用いたメニューにしたり、ご利用者様と育てた野菜を収穫し料理に使うなどしています。開設して3年が過ぎ、地域の方々にも徐々に認知されてきました。地域の文化祭やお祭りに声をかけて頂いたり、小学校の発表会に招待されたりなど徐々に交流が深まってきていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から4年目を迎えるとしておりホームの努力が徐々に地域との繋がりを生み、美化活動に入居者と共に関わりながら地元での認知度も上がってきている。運営推進会議には各分野から地域の代表者が足を運び、リビングルームで入居者の顔を見ながら進めることでホームの取り組みをより身近に共有し、運営向上に活かされている。また、食に力を入れるホームは専門店からの配達食材に加え、季節の野菜を取り入れ見た目にも美しいバランスの取れた食事を提供して入居者に好評を得ている。ホームで初めて顔を合わせたとは思えない仲睦まじさで、まるで三姉妹のように互いを思いやる入居者や、職員の声援に得意の問題集に取り組む入居者など広々としたリビングは、終始賑やかであった。こののどかな日々が継続されることを願い、ホームの更なる前進を心から期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	清流の理念を念頭に置き日々のケアに取り組んでいるが、開設3年が経過し、利用者様との関係も確立した今、ケアの振り返りが十分になされていない部分もあり、今一度原点に戻り理念に基づいたケアを全スタッフで話し合いが必要。	運営者の思いが詰まった理念である。地域密着型事業所として社会との繋がりを謳い、入居者主体のホーム運営を掲げている。3年が経過した中で、今回の自己評価が職員の自己点検の機会となり、ケアの振り返りとなったとして、これからの1年を更に地域との交流に力を入れたいとしている。	運営推進会議の中でも理念について紹介し、参加者から様々な意見を得ており、ケアの指針として内容を検討することも必要と思われる。また、来訪者に向けて玄関のわかりやすいところへ掲示されるとよいと考える。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に参加したり、文化祭やどんどやなどの行事に参加する事で、清流の認知度は上がってきている。昨年に引き続き婦人部の慰問や夏祭りには前年度よりも多くの方々に参加して頂き、交流は少しずつ出来てきている。今年度は小学校や保育園との交流も検討していきたい。	開設時から徐々に地域との交流の輪も広がり、ホーム主催の夏祭りを今回は回覧板を使って広く参加を呼びかけている。地域の神社や水路掃除、缶拾いには入居者も共に関わっている。地区や農協婦人部による訪問交流や、近隣者からの野菜や苗の差し入れなど普段のお付き合いも出来てきている。	管理者は地域の幼稚園や小学校などにも足を運び挨拶を済ませており、今後は更に相互交流の機会を模索したり、小・中学校の体験学習の受け入れなどに尽力されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにおいて、参加者の方々を対象に勉強会を開催し認知症の理解を深めて頂くと共に、近所を散歩した時など地域の方々と交流を図ることで認知症について、清流の活動内容について発信するよう心掛けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において参加者から様々なご意見を頂き、出来そうなことからサービスに反映させている段階。今年度は地域の消防団との夜間を想定した合同消防訓練を行い、連携が図れるところ、検討が必要などころがよくわかり大変良い取り組みが出来た。	2ヶ月ごとの定期開催が実現しており、行政や包括・地元駐在所や消防団・地区代表者などが参加し、地域に支えられていることが窺える。会議は入居者のいるリビングで開かれ、参加者は会議内容と入居者の様子をすり合わせながらホームの現状を把握し、意見や質問を投げかけている。	地域代表者が参加するせつかくの機会でもあり、介議の席で一言ずつ発言してもらう場を設けたり、家族に送付する議事録に参加を呼びかける文章を添付するなどの取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の長寿支援課より運営推進会議に毎回参加して頂き、意見交換を図れている。また、市役所からメールで研修会のお知らせや感染症の注意喚起等様々な情報が発信されており、解らないことがあればすぐに相談できるシステムが確立されている。	市役所長寿支援課や包括の運営推進会議の出席によりホームの運営状況を発信しながら、意見や提案を運営に反映させている。管理者は制度上の質問や相談事に応じてもらい、行政主催の研修に出来る限り参加し、共有するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束排除の研修会へ参加促し、参加できなかった職員に対し伝達講習で周知徹底に努めているが、日々のケアの中で、何気ない一言がスピーチロックに陥るのではと感じることがある。定期的な事例検討を繰り返していく必要あり。	同業者と合同で月のテーマを決め、研修会を実施している。職員は身体拘束について正しい知識を共有し、「自身の心が穏やかでなければいいケアが出来ない」ことを、共通認識として入居者に対応するよう努めている。しかし、普段の関りの中にスピーチロックについて、まだまだ不十分な点があるとも語っている。	居室に足元センサーを必要とする入居者もいるが、使用開始時ばかりでなく定期的な家族への報告が望まれる。また、スピーチロックについては互いが気を引き締め、必要と思われる時点で話し合いの場を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し理解を深めているが、学んだことと実際のケアが繋がっていない事がある。日々のケアにおいてスタッフ同士声掛けを行ったり、気づきメモを活用し、自分のケア、人のケアでの気づきをスタッフで共有できるように工夫している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し権利擁護・成年後見制度について学んでいる。成年後見制度を活用しているご利用者様はいらっしゃらないが、今後必要になる方が出てくる可能性もある為制度について理解を深め対応できるようにしていく必要あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を用い、本人・ご家族に説明している。解りづらい箇所は具体例を挙げ説明し、納得して契約して頂けるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の時にお声掛けをし、ご利用者様の近況をお伝え、その時に要望やご意見などないか伺うようにしている。また担当者会議の席でも必ず要望・ご意見をうかがうようにし、何かあればカンファレンスで話し合い対応している。	家族は面会時や運営推進会議に参加することで、意見や要望を自由に発言することが出来ている。寄せられた意見や苦情については、運営者を交えて全職員で話し合い、解決策を見出し、結果内容を家族に報告している。入居者の中には自身の言葉でしっかりと要望を伝える方もおられ、外出や買い物、墓参などに出来る限り対応するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスなどで運営に関する意見を聞く機会があり、会議で上がった意見は代表にも伝え働きやすい環境づくりにご尽力頂いている。しかし、代表者と直接話が出来る機会が少ない為、今後は定期的に機会を設けていく必要あり。	管理者は普段から職員の意見を吸い上げ、必要によっては運営者に声をあげて処遇改善などに反映させている。月のケア会議で入居者の現状を共有し、何かあれば話し合いの場を持ちホーム運営の向上に努力している。	運営者と更にホームの現状を共有するために、定期的な情報発信の必要性があると考えます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップの為、研修会への参加の機会を多く持たせて頂き、日々のケアに生かしている。今年度より他のグループホームとの合同研修会も開始し、交流を図ることでお互いに刺激し合い向上心を持って仕事が出来た様になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会の研修や合同研修会など毎月の研修会への参加を促し、スキルアップに努めている。今年度より他グループホームと合同の内部研修会を毎月開催し、現場で実践できる研修会の開催が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で他の施設職員と情報交換をしたり、合同勉強会で情報交換をしたりと昨年度より交流の機会は増え、日々のケアに生かされつつある状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階は、不安が大きい時期である為本人・ご家族の話をよく聞き対応するよう職員一同心がけている。得た情報はスタッフみんなで共有できるようカンファレンスノートや申し送りノートなどで対応しご利用様が安心して過ごせるよう気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時、ご家族様の困っている事や不安な事をしっかり聞くようにしている。入居後も面会に来られた時に施設側に対して要望がないか尋ねたり、ご利用者様の状況を報告したりし信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の話を十分に聞き、どのサービスを提供する事がベストなのか判断するようにしている。判断に困ったときは地域包括のスタッフに相談したり、他のグループホームに相談したりし対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何かする時必ずご利用者に話を聞き、何がしたいか、どうしたいかをまず尋ねるように気を付けている。食事の献立を一緒に考え料理を作ったり、畑仕事を一緒にしたりと一緒に過ごす時間を多く持つよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる方にはその都度ご利用者様の様子をお伝えし、ご利用者様の要望もお伝えしている。なかなか面会に来れない方には、定期的に連絡し状態を伝える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を得て可能な限り馴染みのお店に出かけたり、よく行っていた場所に出かけたりしている。以前に比べ、友人や親せきなどの面会が少なくなっている為、今後途切れないよう支援していく必要がある。	入居者が通い慣れたスーパーでの買い物や美容室を利用したり、友人宅を訪れるなどこれまでの生活が継続できる環境を整えている。手作りおやつや高菜漬けを職員と楽しむ入居者の微笑ましい様子も確認された。本年度から家族を誘い「長寿の祝い」を開催している。	入居者の健康を祝う「長寿の祝い」が家族の参加を得て継続されることを期待すると共に、個々のこだわりなどにも目を向けていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの認知症状でトラブルになることもあるが、その都度カンファレンスを行い、ご利用者の個性、何がトラブルの要因になったか話し合い、同じトラブルを繰り返さないようにしている。ご利用者様が居心地が良いと感じる空間作りを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も暑中見舞いや年賀状などおたよりを出したりし、いつでも相談して頂けるよう関わりを絶やさないよう気を付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何かする時必ずご利用者様に話を聞き、何がしたいか、どうしたいかをまず尋ねるように気を付けている。利用者様の能力・個性・これまでの生活歴など考え、出来る事・出来ない事・工夫したら出来る事を常に考えどうしたら希望に添えるか日々のカンファレンスなどで考えている。	入居者の中には実の姉妹のようにホーム生活を楽しむ方もおられる反面、人との関りが苦手な方もいる現状を職員はしっかりと見極め、個別に寄り添いながらゆっくり話を聞き対応している。担当者会議で個々の思いを収集し、プランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や親せき、面会者などから情報収集しているが十分でなく、入居前の様なその人らしい生活までには至っていない現状。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様それぞれの生活スタイルが把握でき、それぞれに合った生活支援が出来てきたと感じる。しかし、本人のできる事のスタッフ間の情報共有が不十分な為、スタッフが手を出しすぎている部分がある。今後の課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議において、本人・ご家族から情報を得て、計画に反映できるようにしている。カンファレンスなどでその都度話し合い対応策を講じているがモニタリングや評価などが出来ていない現状。今後検討必要。	プラン作成にあたって職員を入居者の担当制としており、本人・家族の意向をもとに職員の意見を反映したプランを作成している。計画作成担当者は特に、意思疎通の難しい入居者に焦点を当て、本人の思いを表情や日々の生活から推察しプランに活かしている。3カ月から半年を目安に見直し評価をしながら、家族へのわかりやすい説明を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果などを記録に残すよう意識しているが全スタッフが出来るまでには至っておらず、引き続き記録の充実させ情報量を増やし介護計画に反映させていけるようしていく必要あり。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が病院受診に同行できない時は代行し対応している。外出支援も本人のニーズに可能な限り対応しているが、ご利用者様の満足いく支援が出来ているまでには至らない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動に参加したり、地域の文化祭や、小学校の発表会に参加したりなど地域資源を活用している。また馴染みの人や場所へも出向き地域の人との触れ合いを大切に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診出来る様に支援している。かかりつけ医以外の診察時はご家族にも相談し対応している。ご家族が受診に同行される際、必要に応じ情報提供書を用いたりスタッフが同行し対応している。	これまでのかかりつけ医への定期受診を現在はホームが中心に支援しており、かかりつけ医以外への医療機関については、家族へ相談している。家族による受診対応時は、必要に応じて情報提供書を渡したり、職員も同行している。ホームは週3回や必要時のバイタルチェック、月1回の体重測定(車椅子利用者は受診時)、表情や食欲の変化等から異常の早期発見に努め、かかりつけとの連携から適切な医療支援に繋げている。	ホーム対応の受診支援も多く、他の入居者への関わりが薄くなることも懸念され、今後は家族の協力も含め、検討の余地があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を十分に行い、本人からの訴えがなくてもいつもと違うと感じた時にはリーダーに報告、必要時看護師に相談するようになっている。看護師と24時間連絡を取れる体制を確保し緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になったときは必要な情報を提供しご利用者様が安心して過ごせる環境を病院側に伝える。また入院中もこまめに面会に行き本人の顔を見て話を聞き情報収集に努めると共に、病院からも情報収集し可能な限り早期の退院に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際、終末期ケアについて説明している。入居後も状態に変化があったときにはその都度ご家族と話し合い意向を確認している。看取りに対して不安を口にするスタッフもいる為、看取りの研修を行い、チームで取り組めるようにしていく必要がある。	入居時に看取り支援について医療支援が必要でなければ取り組めることなどを簡単に伝えてはいるが、指針の作成から日がたっており家族へははっきりとした説明はまだ行われていない。入居後、実際そのような状態になった時点で、家族の意向を確認している。職員から重度化・終末期支援に対する不安も出されており、管理者は研修会の必要性をあげている。	今後は職員のメンタル面に配慮した研修会と共に、まずは職員体制を整えて行かれることが必要と思われる。これからもご縁のあった入居者に最良の時間を提供いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時の対応についてデモンストレーションを行っている。また、緊急時や急変時事故発生時の対応マニュアルを作成し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は2回/年実施しており災害時に備えている。今年度は地震想定での避難訓練を実施し、地震の時の注意事項、避難方法について消防署より話を頂きました。今後も様々なケースを想定し訓練を行い想定内で対応できるようにしないとイケない。	夜間想定や地震発生からコンセントの漏電を想定した訓練では、カンファレンスでシュミレーションを行い実施に至っている。2回の訓練には、消防署の参加が得られ、注意事項や避難方法などの指導を受けている。備蓄については、大雨・積雪の前に食料を多めに購入しており、常時の備えは行われていない。	入居者の安全確保は最も重要な点であり、今後は近隣住民へ訓練の参加を呼びかけるなど協力体制を構築されることが必要と思われる。また、コンセントの埃やホーム周辺に可燃物がないかなど、日頃の安全チェックや災害備蓄の確保に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉遣いや声掛けなど気を付けて対応しているが、生活が長くなるにつれ馴れ合いの話かけになっていることがある。気づきメモを活用しスタッフの声掛けや言葉使いなど気になることを伝え合えるようにしている。	入居者を人生の先輩として言葉使いなど、失礼の無いような支援に努めているが、馴れ合いになっている場面もあるようである。気づきメモを活用し、職員同士で気になることを伝え、振り返る機会を持つようにしている。個人情報の使用については、入居時に書面で説明を行っている。	今後も気づきメモの書き方を工夫しながら、入居者の満足に繋がるサービス支援に活かしていただきたい。また、職員の守秘義務の徹底についても、研修会など周知徹底される機会を持たれることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かする時は必ず本人にどうしたいか尋ね希望を聞くようにしている。希望を思うように伝えられない利用者様には選択できるような声掛けで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿ったケアを心掛けているが、スタッフの人数や介護度の差などの問題もあり、希望通りにいかない場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時は外出用のおしゃれ着に着替えたり、行事の時はメイクをしたりと身だしなみには気を付けている。カットやカラーなど本人の希望があれば美容室に出かけ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は献立は1週間分前もって決めていたが、冷蔵庫の材料で何が食べたいかご利用者様と相談しメニューを考える様にしている。調理が可能な方には切込みや味付けなどお願いし一緒に調理も行っている。	肉・魚のメインは決めているものの、調理方法や入居者の希望、冷蔵庫の食材を確認してその日のメニューを決定するという、家庭的な取り組みである。誕生日会では、希望があれば馬刺し・刺身・ノンアルコールのビールも提供している。専任者を中心に調理されているが、入居者も可能な方は、野菜の下準備や味付け、饅頭などのおやつ作りを一緒に取り組んでいる。初物を食べて喜んで欲しいとの思いからいち早く竹の子を調達するなど、入居者に食事を楽しんでもらいたいとする職員の思いが伝わってきた。	旬や精肉・鮮魚など食材にもこだわり食事が作られている。このような取り組みも家族へ発信することで、更に安心に繋がると思われる。また、職員も同じ物を一緒に摂っており、味や量・入居者の発せられた一言など記録に残し、今後の調理や入居者との会話に活かしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量にバラつきがある方や体調のすぐれない方はチェック表で摂取量の把握に努めている。また、飲み物の好みも把握し体調や状態に応じ内容を変えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には毎食後介助にて対応しているが自立した方には声掛けのみで仕上げ磨きまではできていない。状態を見ながら歯科衛生士に指導をもらったり口腔ケアに入ってもらおうようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し対応したり、表情やしぐさ、動きなどから失敗がなくトイレで排泄できる様に声掛けしている。	半数の方は自立されており、布下着やリハビリパンツ、パットの併用など状況に応じた排泄用品によって現状を維持できるようにしている。また、表情やしぐさなどから察知し、さりげない声かけや誘導など、プライバシーにも配慮しながら失敗のないようにサポートしている。夜間もトイレでの排泄を支援しており、職員は1日を通して何時でも気持ちよく使用できるよう清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通が良くなる食事や水分摂取量を気を付けながら自然排便が出るよう気を付けている。イレウスの既往がある方は特に注意し必要時下剤や浣腸などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務体制の関係で夜間の入浴が困難であるが、入浴希望者には事前に入浴時間を確認し対応している。毎日入りたいという希望もあり今後は体制を整えながら希望に添える様にしていきたい。	希望を確認しながら現在は、週3回午後からの入浴支援に取り組んでいる。拒否の方もおられるが、職員は焦らずゆっくり関わりながらすすめている。機械浴が設置されたことで、安全面とゆとりを持って支援できることは、職員の負担軽減ともなっている。入浴剤の使用や菖蒲・ゆず湯で香りや季節を味わったり、リラクゼーションの資格を有した職員によるマッサージも楽しまれている。	日帰り旅行で温泉入浴を楽しむ機会も持たれている。今後は毎日入りたい方へも体制を整えていきたいとしており、入居者の入浴が更に楽しみなものになると思われる。実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調を見ながら昼寝を促したり、希望時臥床し過ぎて頂いている。また、夜間入眠前にホットドリンクを提供したり加湿器やエアコンなどで空調にも注意し安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の内服中の薬についてはファイルにとじ薬品名・作用・副作用が一目で分かる様にしている。臨時薬については申し送りで必ず送り注意して観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除や洗濯たたみなど自分の出来ることは自分ですよう願う事で役割が出来張り合いのある生活が送れるよう支援している。また、外出支援を多くし楽しみや気分転換を図れるよう計画を立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回全員で外出する機会を設け温泉旅行や史跡巡りなど行っている。また、日常でも、ご利用者様の「行きたい」「したい」には答えられるように対応している。	可能な限り入居者の希望に沿って散歩や外出ができるようにしている。また、年2回は三角西港や人吉など史跡や世界遺産めぐりの他、温泉(大野・坂本村)に家族の参加協力を呼びかけ実施している。地域資源を活用した花見(梅・菜の花・彼岸桜・牡丹・紫陽花など)や神社の祭り見学、菜園の管理(野菜の苗植えや収穫など)を支援しており、これらは活動写真資料として残されている。入居者が満面の笑みで両手を挙げ『亀蛇』を玄関先で迎えた際の写真や、菜園の収穫の様子などが窺われる。	個々の受診対応を職員が中心になって行っており、ホーム車輜は受診に使用することも多い現状である。その為、天候や入居者の体調が良くてもチョットとしたドライブができないのは残念と思われる。「どっか連れて行って～!」、と要望を出される方もあり、検討の必要があると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方は数名であるが買い物時など自分で支払される為見守り対応している。自己管理が困難な方も外出時など欲しいものを購入する機会を持ち欲しいものを買える環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に連絡をしたい時はいつでも馴染の声が聞けるよう支援している。年賀状が届いた方はお返事を書いたり、なかなか面会に来れないご家族には写真入りのお手紙を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから中庭のウッドデッキに出ると畑があり野菜や花、樹木を見て季節を感じる事が出来る。また、季節に応じてお雛様を飾ったり鯉のぼりを飾ったりし季節感のある室内に気を付けている。	中庭に置かれたベンチには、仲良しの入居者同士が腰を下ろして歌声や笑い声が響きあいホームの日常を表している光景であった。敷地内には実をつける樹木や草花、ホーム内の飾りものなど季節感が入居者に楽しみを与えている。木材を活かした建物内は、ソファの配置も入居者の状況に合わせて検討しており、日々の掃除は居室も合わせて早出の職員と一緒に取り組まれる方もおられる。	カラオケルームが直近は利用されていないようである。歌う場としてだけではなく、寛ぎながら違った雰囲気でお茶を楽しむなど活用できると考える。また、薬品などは安全面に配慮した収納が望まれる。写真は近況の物を掲示する事で、季節感や本人・家族の楽しみにも繋がると思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を工夫したり中庭のカラオケルーム、和室など1人でゆっくり過ごせる空間作りをしてきたが思うように活用できていない。検討の必要あり。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族から馴染の家具や馴染の品を持ってきていただき、家具の配置も自宅の配置に合わせるような工夫をしている。	居室の形(正方形)からもゆとりの広さがあり、家族は本人の希望にも応じながら、家具や衣類をはじめ、様々な持ち込みがされている。収納スペースに加え、職員のアイデアにより、紐や棒を使った衣類かけは味があり、懐かしさも伝わって来る。模様替えを希望される方や、季節によって異なる陽の上りに合わせ、ベッドの向きを変え太陽に手を合わせられる方など自分の時間を持たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の安全を強く考えてしまい、出来る事までスタッフがしてしまったり、物がきれいに片づけられすぎていたりする傾向がある。本人がしたいようにできる環境づくりまでには至っていない。		